

ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学

薬学部 医療薬学科

小田中 啓太

作成日 2025 年 4 月 21 日

1. 教育の責任

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念をもとに、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命としている。医療人として、薬剤師として活躍できる人材を育成するべく私は、専門分野である感染制御学、微生物学分野における下記科目を担当する予定である。

担当科目

微生物学Ⅰ(2年次・必修)

医療薬学チュートリアル演習Ⅰ(2年次・必修)

微生物学実習(3年次・必修)

薬学総合プレ研究(3年次・必修)

卒業研究Ⅰ(4年～5年次・必修)

卒業研究Ⅱ(6年次・必修)

総合演習Ⅰ(6年次・必修)

チーム医療論(6年次・必修)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

以下に記載の薬学部教育目標を達成すべく、教育に尽力する。

教育目標

1. 人間および生命への尊厳を理解し、医療人としての幅広い教養と科学的・論理的思考力、生涯学び続ける基礎的な知識と研鑽及び態度を身につける。
2. 患者様に質の高い薬物治療を提供できるように医師など多職種と連携して、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につける。
3. 薬学基礎知識・技術を用いて問題を発見し解決するために、医療現場の薬剤師に必要な診療支援能力を身につける。
4. 薬学、医療の進歩と改善に資するための研究マインドを身につける。
5. 地域の健康増進や公衆衛生について科学的根拠に基づいて、問題発見・課題解決能力を身につける。

1.の項目に関連することとして、人間的な豊かさを育み、薬学で必要な基礎知識をしっかりと修得することを行う。学生さんには、座学の授業に加え、研究室での研究や実務実習などを通して、薬学で必要とされる基礎知識を習得するとともに、患者様のことを考え行動できるマインドなども養って頂きたい。

2.の項目に関連することとして、学生さんには、授業や実務実習などを通して、他職種の方々がどのようなことを考えているのか、薬剤師として出来ることは何なのかなどを自ら考え、将来チーム医療に積極的に参画するための基礎を築いて欲しい。

3.の項目に関連することとして、学生さんには、授業で得た知識を実務実習などの実

習で活かして、より知識を定着させ、薬剤師になるために成長して欲しい。

4.の項目に関連することとして、学生さんには、卒業研究や実習などを通して、研究を遂行することの意義や事象を観察することで、問題を発見し、解決策を立案することを学んで欲しい。このことは、実際に現場に出た際に、患者様の状態をチェックし、問題の有無を把握し、どのように対応すべきか考えられる人材を育成するためにも重要なことと考える。また、卒業研究などで、研究室メンバーとコミュニケーションをとり、1つのプロジェクトを遂行していくことは、今後チーム医療などにおいて、複数の医療人たちとコミュニケーションをとり、患者様にアプローチしていくことにも役立つものと考ええる。

5.の項目に関連することとして、学生さんには、授業や実務実習などを通して、公衆衛生に係る薬剤師の重要性や実際の業務などについて学んで欲しい。

2) 理念をもつに至った背景

大学生活を通して、医療人、社会人として必要な心の在り方や技術、知識を成長させていって欲しいと思っている。そして、社会に出てからも研鑽を続け成長できる人間になっていって欲しいと思っている。人間性、技術的なこと、幅広い知識など医療人にとって必要なことは多くあるが、私の考えでは、この中でも人間性の部分が最も重要であると考えている。患者様や他の医療人などと円滑なコミュニケーションをとることは、薬剤師にとって必須である。技術的なことや知識を持っていたとしても、人間性が豊かでなければ、医療人としては未熟であると考えている。私は、学生に研究室での生活などの大学生活や実務実習を通して、人間的にさらに成長していって欲しいと思っているので、上記理念を記載した。

心の在り方以外にももちろん薬学で学ぶべき基本的な知識の習得や調剤手技の習得など技術的な部分も大変重要だと思うので、薬剤師になるために必要な知識や技術もしっかりと身につけて欲しいと思い上記理念を記載した。

3. 教育の方法・戦略

着任後間もないことから、本学における講義や実習はまだ行っていないが、前職の大学では、基礎科目を教える際には、基礎知識の重要性や臨床とのつながりなども説明し、学生さんの学習意欲を高めるようにしていた。薬理学など専門的な科目の講義では、症例の紹介をするなどして、医薬品の基礎知識がどのように使われるか、現場ではどのような問題が起こりうるかなども説明し、学生さんの学習意欲を高めるようにしていた。

● 工夫点等

- ・講義中や復習時の勉強の手助けになるよう、講義内容のチェックポイントなどの資料を配布し、理解して欲しい部分を明確にするよう心がけていた。
- ・講義内容に関する演習問題を配布し、復習に役立ててもらった。
- ・課題の中に、講義難易度や講義内容に関する質問事項、再度説明して欲しい部分なども記載してもらい、広く学生の要望に答えていた。
- ・講義内容に対して、より興味をもってもらうために、関連する最近のトピックや医療に関することや症例などを講義中に話すなどした。

- ・学生さんたちが自ら考えて、学んだ知識をアウトプットすることで学習効果が上がると考え、スモールグループディスカッションなどによるアクティブ・ラーニングを取り入れた。
- ・実習では、基本的な実験手技を習得してもらえるよう丁寧に指導した。
- ・学生さんには、得られた結果等を吟味し考察してもらい、どのような現象が起こっているかを考えながら、問題があった場合には、その解決策を考えることも行ってもらった。
- ・卒業研究の指導では、研究に関する報告、連絡、相談をしっかりと行うことを指導し、実験を行う場合には、実験から得られた結果を吟味し、どのようなことが起こっているか、どのような問題があるかなどを考えてもらい、できるだけ自ら考え課題を見つけ、その問題を解決することをやってもらうようにしていた。

4. 学習成果

前職の大学における学生による授業評価では、「授業は理解しやすいように工夫されていた」、「授業は良く準備がなされていた」などで高い評価を得ていた。

5. 改善のための努力

授業では、最新のトピックスや症例などをアップデートしながら講義を行っていききたい。学生さんには、暗記すれば良いやというのではなく、出来るだけ感染症や微生物に興味を持ってもらえるよう工夫していききたい。

実習や卒業研究の指導では、実験結果を基に自ら考察できるよう指導していききたい。

6. 今後の目標

短期目標としては、実習や卒業研究などの指導をしっかりと行うことである。事務的な業務などの分からない部分は、積極的に質問して解決していききたい。

長期的な目標としては、患者様のために頑張れる薬剤師を育てることと、教育研究を通して、研究室、ひいては本学を盛り上げていくことである。

【添付資料】

なし